

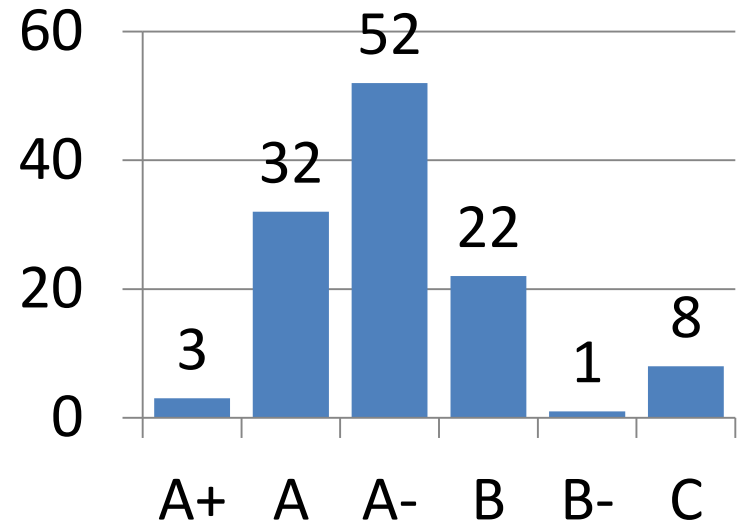
# デジタルドキュメント(6)

高久雅生

2013年5月23日(木)3・4時限

# 第2回レポート課題の講評

- 第2回課題の成績分布は下図に示す。
- レポート内容
  - 掲載プラットフォームとその機能
  - ドキュメントフォーマット
  - 論文の構成要素
- 書誌事項
  - 要SIST-02相当
- URLは書かれているか



第2回レポート課題の成績分布

# 第2回レポート課題で取り上げられた論文

## ・ 掲載プラットフォーム

- CiNii 26
- J-STAGE 26
- つくばリポジトリ 10
- AAAS 6
- 情報処理学会電子図書館 6
- ScienceDirect 4
- 東京大学機関リポジトリ 4
- (その他:学会サイト) 4
- (その他:個人サイト) 4
- SpringerLink 3
- (その他:大学のサイト) 3
- Nature 2
- CiNii, 情報処理学会研究報告 2
- PubMed Central 2

## ・ 掲載情報源

- 情報処理学会研究報告 17
- 情報管理 10
- Science 6
- 信学技報 4
- 日本バーチャルリアリティ学会論文誌 4
- 情報処理学会論文誌 4
- 映像情報メディア学会誌 4
- 情報の科学と技術 3
- デジタル図書館 3
- (修士論文) 2
- 人工知能学会論文誌 2
- テレビジョン学会誌 2

機関リポジトリは全体で 21件

# 本日のお品書き

- レポート返却 及び 講評
- 前回の復習
- 電子書籍
  - 事例とともに：利用と閲覧環境、コンテンツ
- 提出物
  - 出席票

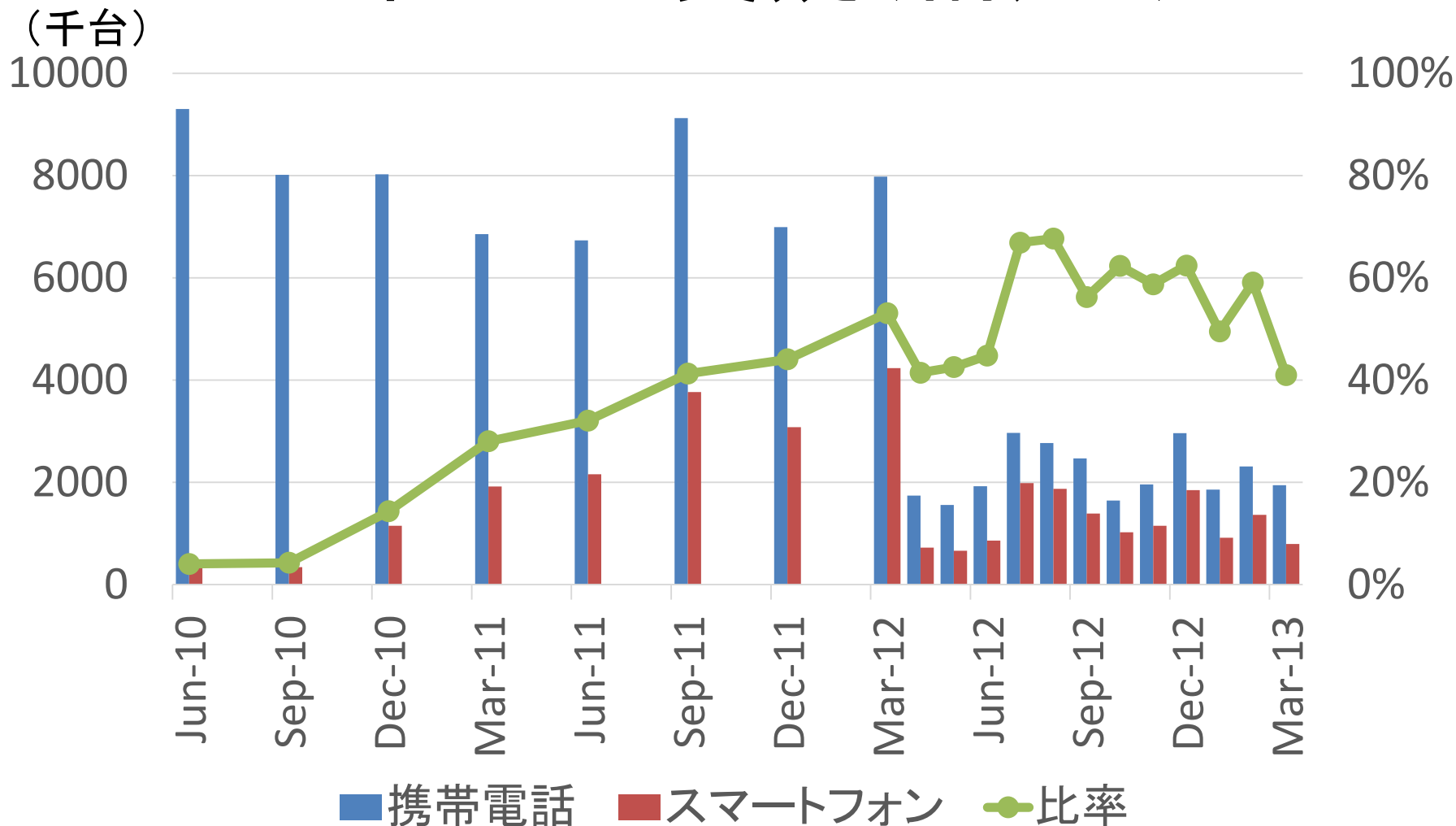
# （前回の復習 = ふりかえり）

- 電子書籍とは何か？
- 電子書籍の歴史とその意義
- 電子書籍の閲覧環境
  - － 閲覧機器、ビューア、コンテンツ
- 電子辞書とAmazon Kindleの事例を確認しながら、それぞれの特徴を考えてみた

# 前回の出席カードから(質疑)

- スライド15枚目の折れ線グラフで、2011年にケータイ向けの電子書籍の市場規模がガクッと減ったのは、新プラットフォーム向けに乗り換えたという理由だけなのか？他に何か理由があるのか？
  - 恐らく、新プラットフォーム向けに乗り換えが進んでいることが要因と思われます。特に、ケータイ向けの主力であるいわゆるガラケーからスマートフォンへの移行の直撃を受けていると見るのが適切かと思われます。
- 電子辞書の価値は今後下がっていくのでしょうか？ ネット辞書の方が情報の更新が容易なので、最近、電子辞書は使わなくなりました...。
  - 何を持って「価値が下がる」と呼ぶかに依りますが、端末そのものの価値は一時の勢いを失っているのが顕著です。
  - なお、あくまでも固定的な電子辞書「端末」としての価値であることに注意してください。電子辞書の内容、コンテンツそのものは、オンライン上での提供を含め、多様な形態で活用され、別の形であれ、電子辞書の利用そのものは進んでいることに注意が必要です。
- 電子書籍、各端末でどのようなジャンルの作品が人気なのでしょうか？
  - Amazon.co.jp: <http://www.amazon.co.jp/gp/feature.html?docId=3077686106>
  - 紀伊国屋書店: <http://www.kinokuniya.co.jp/f/dsd-007004005003-->
  - 楽天kobo: <http://kobo.rakuten.co.jp/event/sp-ranking2012/>

# 出席カード質疑(補足1)



携帯電話市場における出荷台数、それに占めるスマートフォンの比率

出典: <http://www.jeita.or.jp/japanese/stat/cellular/2013/03.html>  
(電子情報技術産業協会, 情報通信ネットワーク産業協会 調べ)

# 電子書籍 (2)



# 電子書籍の事例

- 電子辞書
- Kindle
- Kobo
- Sony Reader
- iPad / iPhone
- Andoroid
- 電子コミック
- PDF
- 青空文庫
- プロジェクト・グーテンベルグ
- 近代デジタルライブラリー

専用フォーマット

電子書籍端末  
(専用機)

専用ビューア

PDF / EPub

一般端末  
(汎用機)

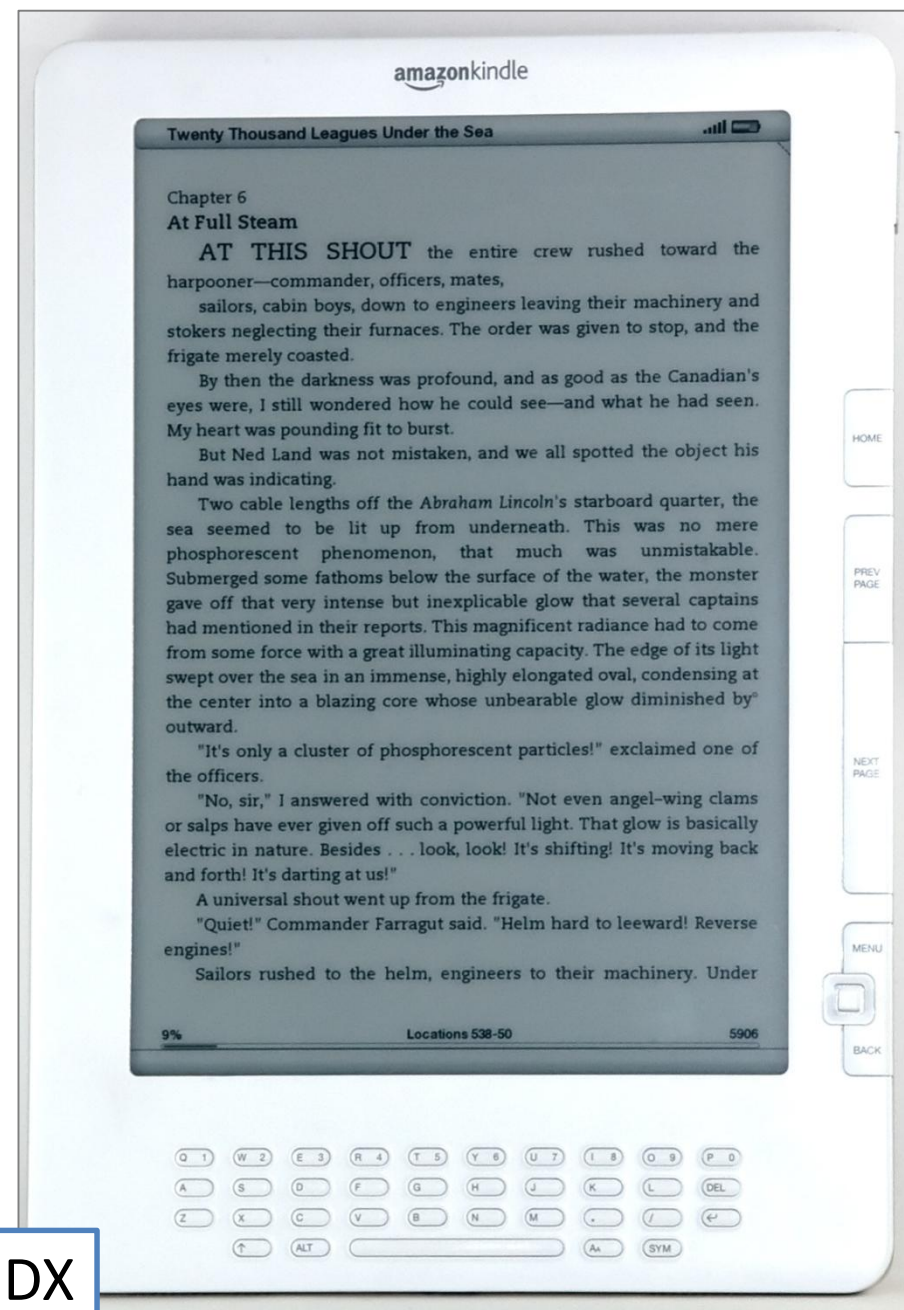
ブラウザ

コンテンツ

Flash / HTML5

# 事例2: Kindle

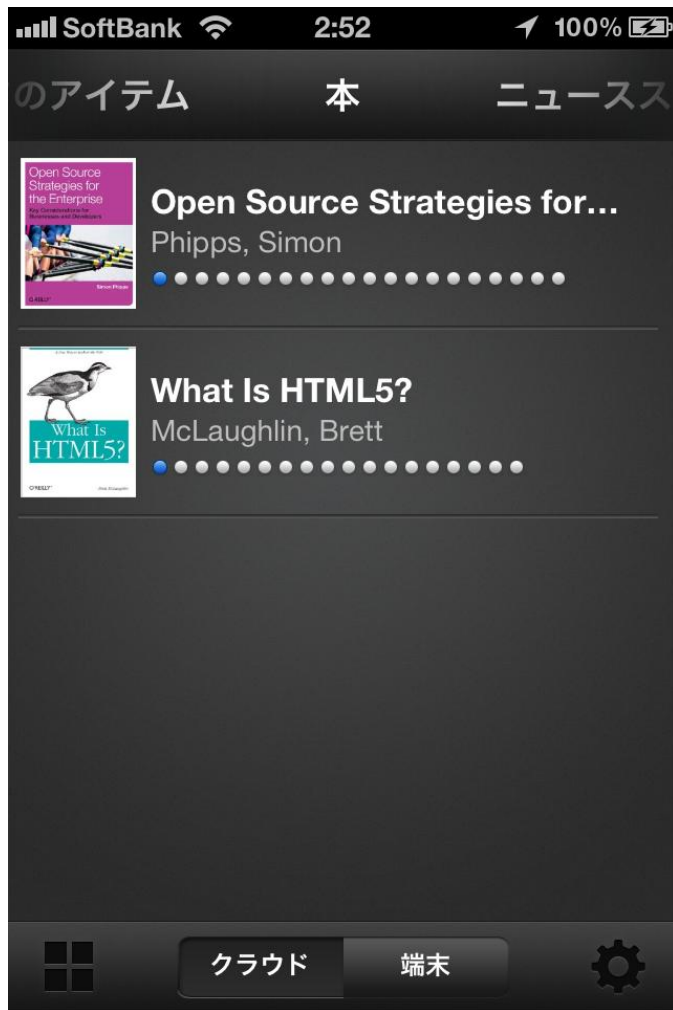
- アマゾン社によるオンライン書店連携型の電子書籍専用端末
- オンラインプラットフォーム連携型の端末として画期的な登場(2007年)
  - 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
  - データ通信機能内蔵
  - コンテンツのクラウド保存蓄積
  - オンライン書店を通じたシームレスな連携
  - 利用可能なコンテンツ
- 端末以外としてのKindleソフトウェアの提供も
  - iPad, PC - ブラウザ等
  - 端末間の同期



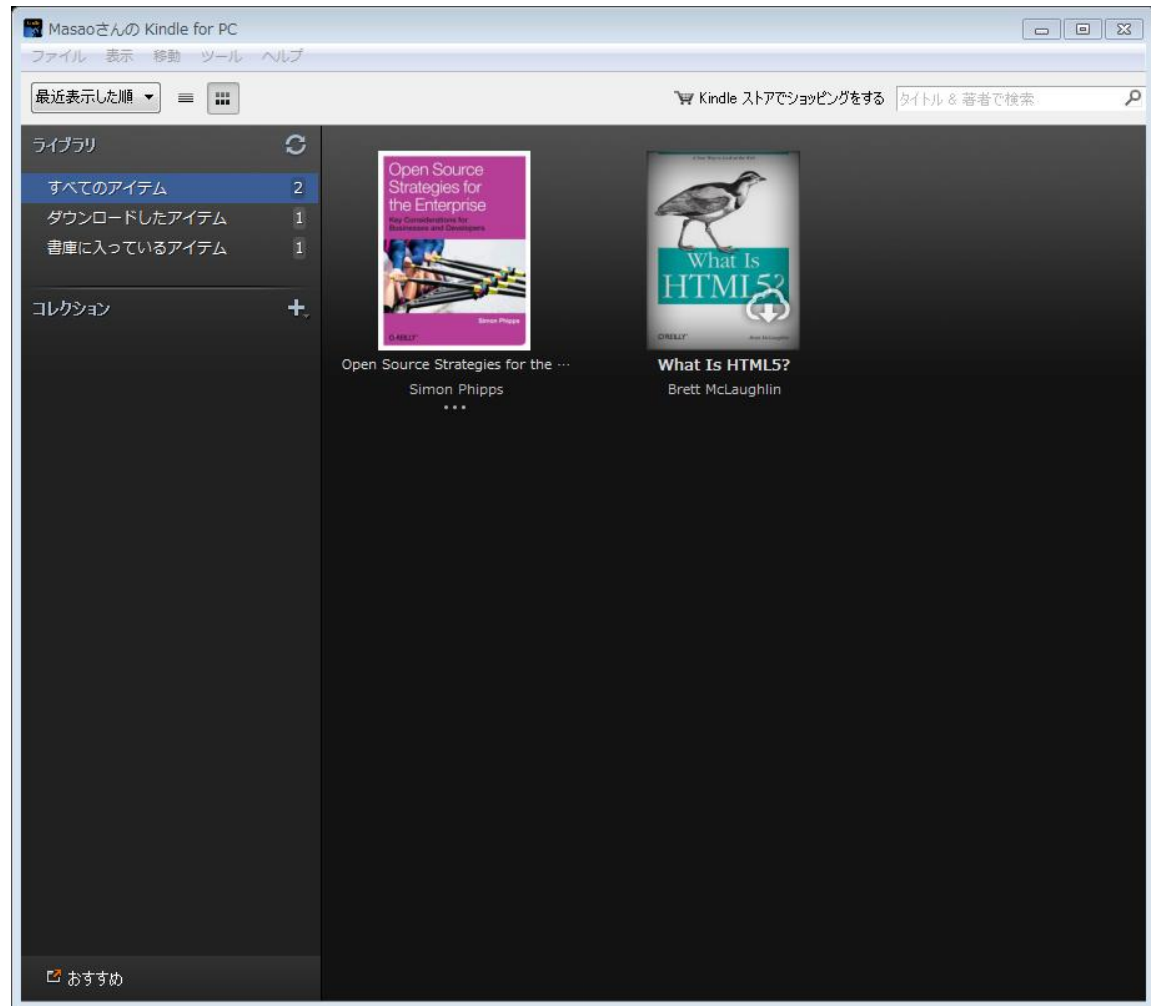
Kindle DX

[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle\\_DX\\_Front.jpg](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kindle_DX_Front.jpg)

# 事例2: Kindle (2)

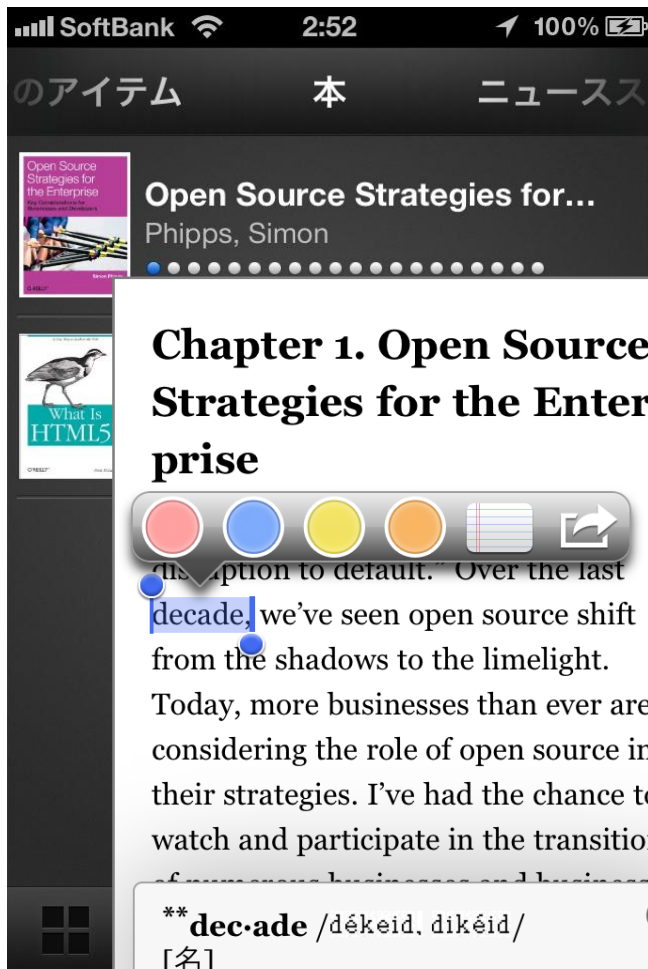


Kindle for iPhone



Kindle for PC

# 事例2: Kindle (3)



**\*\*dec·ade** /dékeid, dikéid/ ⓘ

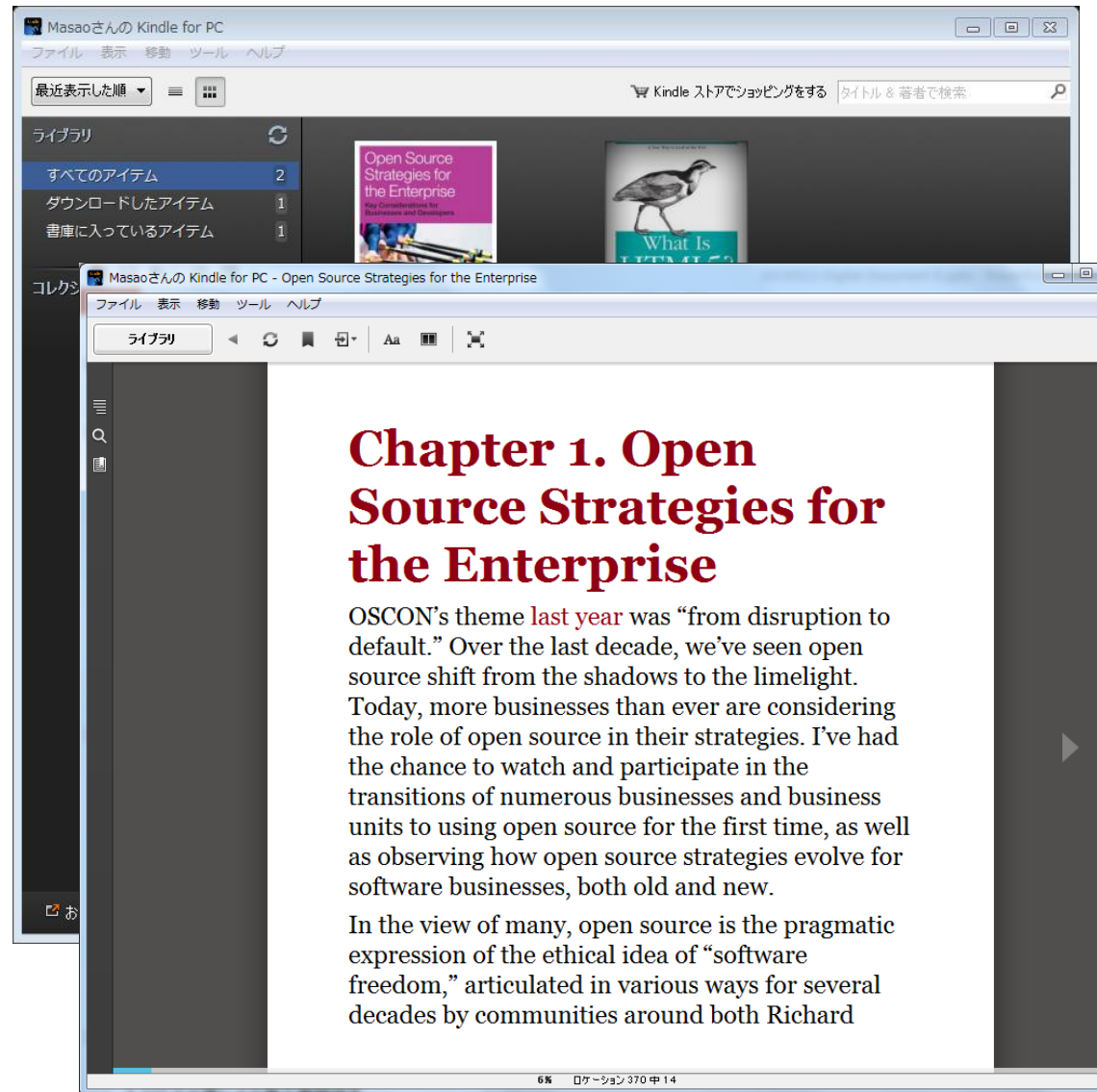
[名]

1 10年間 ¶the last decade of this century 今世紀最後の10年間 ¶for

[Google](#)

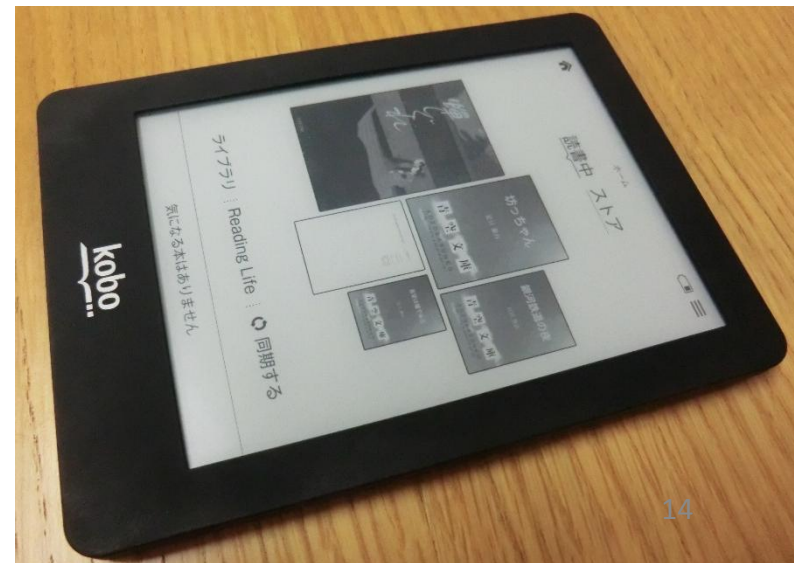
[Wikipedia](#)

[全文表示](#)



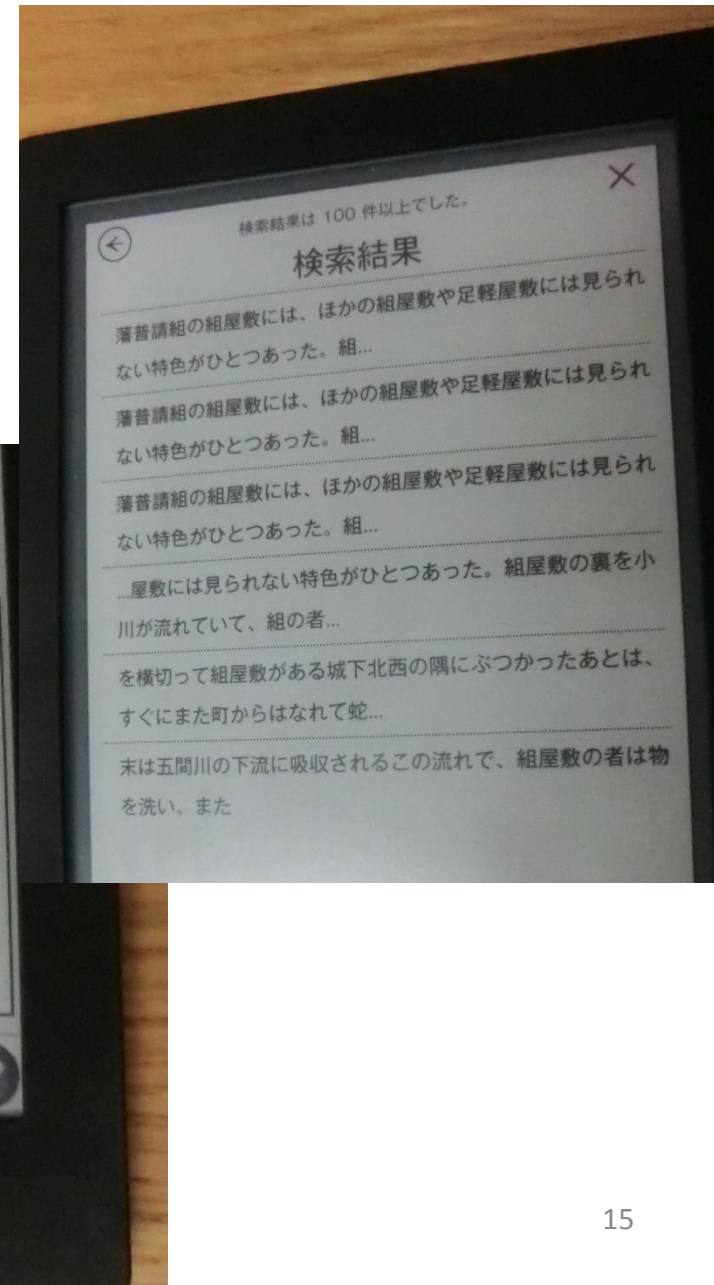
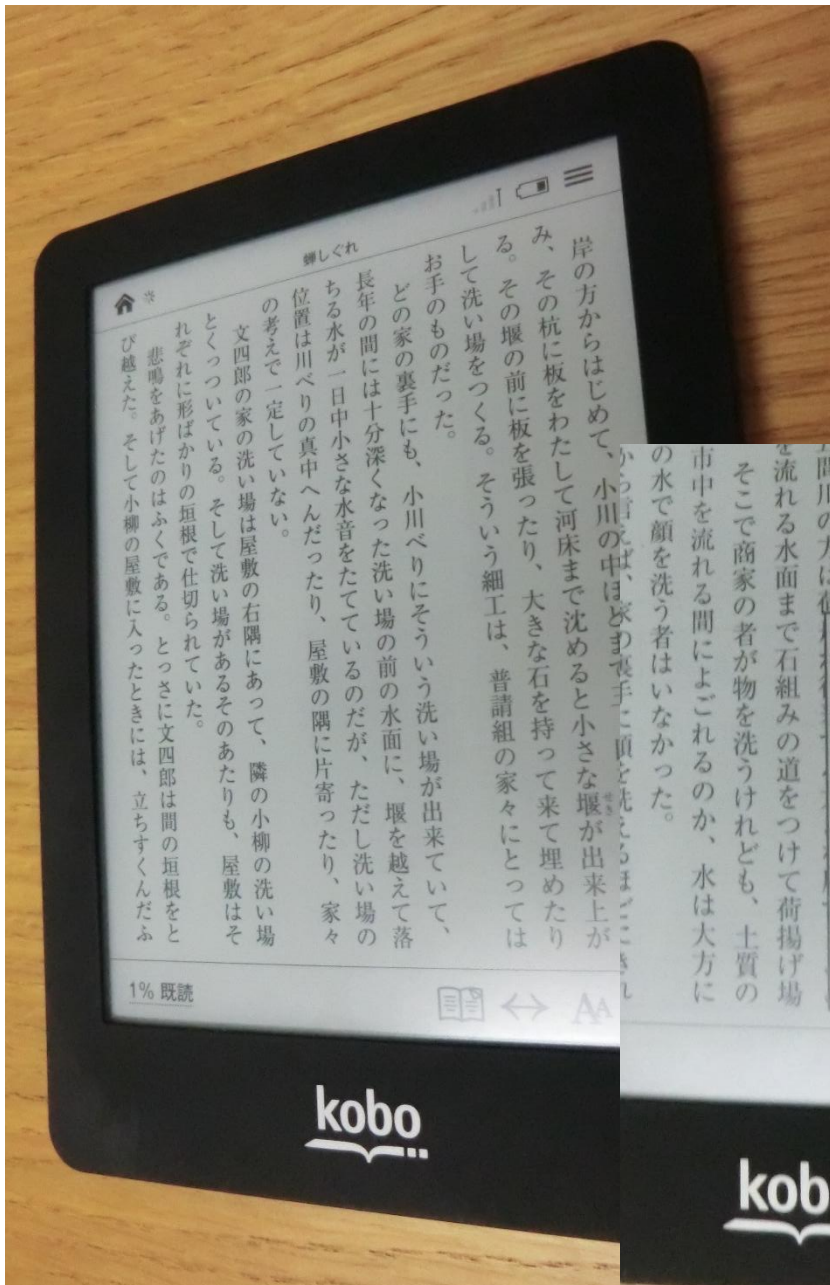
# 事例3: Kobo

- カナダ企業による電子書籍端末
  - 2012年に楽天が買収
- 楽天eブックストア連携による電子書籍
- 電子ペーパーによる画面表示(Eインク)
- コンテンツのクラウド保存蓄積
- データ通信機能
- 利用可能なコンテンツ
  - 約133,893点 (2013-05-16)





# 事例3: kobo (2)



# 事例3: kobo (3)

- <http://rakuten.kobobooks.com/>

The screenshot shows the Rakuten Kobo website interface. At the top, the logo "楽天 kobo" is displayed on the left, and navigation links "ホーム", "会員登録", and "ログイン" are on the right. Below the logo is a search bar with a "GO" button. A breadcrumb trail reads "楽天kobo > 楽天ブックス > 楽天市場". A teal navigation bar contains links for "電子ブック", "電子ブックリーダー", "無料アプリ", and "READING". Below this, a horizontal menu lists categories: "マンガ", "新刊・新書", "(小説 / コミック・漫画 / ビジネス / ラノベ)", "お役立ち情報", "ジャンル", and "基調の本". A promotional banner for "koboglo" highlights "文字サイズ自由自在" and "持ち運びにも便利". Another banner promotes the "kobo" app for iPhone/iPad, offering a "最大94%引き" discount. A three-step guide is shown: "Step 1 電子書籍を購入" (with a "購入する" button), "Step 2 読む端末を選ぶ" (listing Kindle, Kobo, and others), and "Step 3 読む". A large blue button on the right says "すぐログインして新しい読書生活をはじめましょう". Below the guide, a row of book covers is displayed, including "アスキー", "カゲロウプロジェクト", and others. The bottom of the page features a dark navigation bar with links like "マンガの検索" and "新刊の検索".

# 事例4: iPad / iPhone

- 「汎用」端末
- タブレット型端末の代表格
- iOS上にアプリを追加することにより、様々なサービスを利用できる
  - iBooks
  - Amazon Kindle
  - その他各種アプリ
  - <https://itunes.apple.com/jp/genre/ios-bukku/id6018>





# 事例5: 青空文庫

- 電子テキスト作成、公開プロジェクト
  - 1997年開設
  - 著作権切れの書籍テキストを有志ボランティアにより手入力
    - ※著作権法51条: 著作者の死後50年経過により著作権が消滅し、パブリックドメインとなる
  - 無料配布
  - HTML, テキスト形式による配布
- <http://www.aozora.gr.jp/>
- 収録作品数: 11,991 (2013年5月現在)
- ※米国における類似プロジェクト: Project Gutenberg (プロジェクトグーテンベルグ=1971年開始)
  - <http://www.gutenberg.org/>



著作権の保護期間  
延長に反対します

[メイン](#) [お知らせ](#) [掲示板](#) [別館](#) [資料](#) [運営](#) [リンク](#)

www.aozora.gr.jp 内を検索

Google

bing

Naver

Baidu

goo

## インターネットの電子図書館、青空文庫へようこそ。

初めての方はまず「[青空文庫早わかり](#)」をご覧ください。

### メインエリア

[青空文庫早わかり](#)

青空文庫の使い方と約束事を紹介しています。初めての方、ファイルやキャプチャーの取り扱いについて知りたい方も、こちらへどうぞ。

[総合インデックス](#)

作家名、作品名の50音別に、公開作品と入力・校正作業中の作品を一覧できるインデックスです。公開中の作品を探すときは、下の近道もご利用ください。

公開中 作家別:

[あ行](#) [か行](#) [さ行](#) [た行](#) [な行](#) [は行](#)  
[ま行](#) [や行](#) [ら行](#) [わ行](#) [他](#)

公開中 作品別:

<a href="#">あ</a>	<a href="#">か</a>	<a href="#">さ</a>	<a href="#">た</a>	<a href="#">な</a>	<a href="#">は</a>	<a href="#">ま</a>	<a href="#">や</a>	<a href="#">ら</a>	<a href="#">わ</a>
<a href="#">い</a>	<a href="#">き</a>	<a href="#">し</a>	<a href="#">ち</a>	<a href="#">に</a>	<a href="#">ひ</a>	<a href="#">み</a>		<a href="#">り</a>	<a href="#">を</a>
<a href="#">う</a>	<a href="#">く</a>	<a href="#">す</a>	<a href="#">つ</a>	<a href="#">ぬ</a>	<a href="#">ふ</a>	<a href="#">む</a>	<a href="#">ゆ</a>	<a href="#">る</a>	<a href="#">ん</a>
<a href="#">え</a>	<a href="#">け</a>	<a href="#">せ</a>	<a href="#">て</a>	<a href="#">ね</a>	<a href="#">へ</a>	<a href="#">め</a>		<a href="#">れ</a>	
<a href="#">お</a>	<a href="#">こ</a>	<a href="#">そ</a>	<a href="#">と</a>	<a href="#">の</a>	<a href="#">ほ</a>	<a href="#">も</a>	<a href="#">よ</a>	<a href="#">ろ</a>	<a href="#">他</a>

作業中:

[作家別・作品別](#)

[青空文庫 分野別リスト](#)

分野別に公開作品を一

<http://www.aozora.gr.jp/>

Web時代に本はどのように生きていくのか

# 事例6: 国立国会図書館デジタル化資料 (近代デジタルライブラリー)

- 国立国会図書館による電子図書館サービス
  - 蔵書の電子化保存、提供プロジェクト
  - スキャン画像による電子化(書誌情報 + 目次テキスト)
  - 2009年度補正予算による大規模電子化
    - -> 総額約126億円
    - 昭和43(1968)年までに受け入れた国立国会図書館蔵書を電子化
  - 著作権処理が済んだものからウェブ公開
  - 館内閲覧のみ資料
    - (今後、全国の公共図書館へのオンライン配信を予定)
- <http://dl.ndl.go.jp/>

# 国立国会図書館デジタル化資料

トップへ ヘルプ

## 羅生門

目次・巻号 書誌情報

サムネイル一覧 先頭 前 次 最終 コマ番号 2 /116 URL 印刷する フルスクリーン表示

### 書誌情報

詳細レコード表示にする

タイトル

羅生門

著者

芥川竜之介 著

出版者

新潮社

出版年月日

大正12

公開範囲

インターネット公開(保護期間満了)

詳細レコード表示にする

17% 概観図オン 表示領域設定 JPEG表示



<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/969026>

＜2013年4月2日更新＞

電子書籍情報まとめノート



出典: 電子書籍情報まとめ  
ノート.

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~yama88/pla.html>



## 作品を書店でさがす

キーワード『日本の男を喰い尽くすタガメ女の正体』に関連する電子書籍・電子コミックを下記の書店で検索します。

※配信開始日は各書店により異なります。また、書店によっては取り扱いのない作品もございます。あらかじめご了承ください。



(講談社電子書籍サイトにおける電子書店サイトへのリンク例)

<http://dbs.kodansha.co.jp/top.html>

# 電子書籍と紙の書籍の違い

## 紙の本

- 機器を用いずに読める
- 目が疲れにくい
- 持ち運びが簡単で、読むための時間や場所が限定されない
- ページ概念がある
- 文書の量が簡単に把握でき、好きなページを瞬時に開くことができる
- 書き込みやアンダーラインを引くことができる
- 書架に置いても背表紙で確認でき、読んだ本を空間配置できる
- 装丁や紙の手ざわりなど質感によって記憶に残る
- 著作権関係が簡明で、古本として転売しやすい

## 電子書籍

- 本文の検索ができる
- 最新の情報が入手できる
- 必要な情報だけ入手できる
- 文字情報だけでなく、音声、静止画、動画を収録することができる
- 引用や参考文献などにリンクすることができる
- 流通コストを低減し、価格を安くすることができる
- 大きなデータを搭載することができる
- 文字を拡大したり、音声読み上げソフトを利用することができる

# 電子書籍と紙の書籍の違い (2)

- 電子出版物の特徴

- デジタルコンテンツの複製物は複製元と同等で劣化しない
- 誰でも簡単にすばやく複製・加工が行える
- 誰でも簡単に著作物を創作し発信できる
- 流通が簡単になりコストが大幅に低減する
- 蓄積や保存が簡単でランニングコストが安い
- 著作物が有体物から離れ無体物として偏在する
- デジタル著作権管理技術の導入
- 再生装置が不可欠である



# 電子書籍、今後の課題

- 全文検索

- Amazonなか見！ 検索：

- <http://www.amazon.co.jp/b?ie=UTF8&node=15749671>

- Googleブックス：<http://books.google.co.jp/>

- Hathi Trust: <http://www.hathitrust.org/>

- 利用の広がりと著作権

- Googleブックス和解訴訟

- 著作権法改正：公共図書館への配信

- 図書館サービスにおける電子書籍貸出サービス

- 電子書籍の永続的保存

# まとめ

- 電子書籍の事例を確認しながら、それぞれの特徴を考えてみた
  - 電子書籍：端末、書店、コンテンツ、図書館サービス
- 電子書籍の特徴
- 電子書籍の課題
- 次回は、ドキュメントフォーマット及び最近の動向について考えてみたいと思います

# 第3回レポート課題

- 電子書籍を一点選び、読んでみることに。
- 読んだ電子書籍を具体例に即して文章で説明すること。その際、以下の各項目に関する説明を加えること。
  - 閲覧のための前提条件および閲覧環境
  - 読んでみて気づいた点
  - コンテンツの配信元、配信形態
  - ドキュメントのフォーマット(ファイル形式)
  - 電子書籍としてのコンテンツの特徴
- 取り上げた電子書籍の書誌事項を必ず記載すること。
  - SIST-02準拠の形式を用いること

# 第3回レポート課題 (2)

- A4用紙1枚にまとめること(書式自由)
  - 2ページにわたる場合は裏面に記載のこと。
- 課題番号(第3回レポート課題)、提出年月日、学籍番号、所属、氏名を提出用紙の一番上に必ず記入すること
- 提出×切:2013年6月6日(授業時間にて提出を求めます)
  - 欠席等で当日に提出できない場合は、7D 208研究室前にレポート提出場所を用意するので、そちらに提出すること。

# 参考文献

- 野村総合研究所. 2015年の電子書籍：現状と未来を読む. 東洋経済新報社. 2011, 194p.
- 湯浅俊彦. 電子出版学入門：出版メディアのデジタル化と紙の本のゆくえ. 改訂3版. 2013, 142p.
- 特集：電子書籍の未来. 情報処理. 2012, Vol.53, No.12, p.1254-1286.

# 出席票の提出

- 提出年月日、学籍番号、所属、氏名、感想コメント等(あれば)を記入のうえ、提出してください。

提出位置:

3編生  
2013xxxxx

3編生  
2012xxxxx

3年次  
(知識)  
2011xxxxx

3年次  
(創成)  
2011xxxxx

4年次  
2010xxxxx,  
etc.